

中国圏・四国圏広域地方計画 合同協議会 報告書(案) 概要版

平成21年7月

(第2回中国圏・四国圏広域地方計画合同協議会 資料)

中国圏・四国圏の連携テーマについて

中国圏の将来像

1. 地域の多様性を活かした交流・連携で、持続的に発展する中国圏

2. 産業集積や地域資源を活かした新たな挑戦で、持続的に成長する中国圏

3. 多彩な文化と自然を活かして、多様で豊かな生活を楽しめる中国圏

多様な地域が連携した一体感のある中国圏の形成
隣接圏域を含めた交流・連携による活力・魅力の向上
東アジアを始め世界に開かれた交流・連携
中国圏の持続的発展を支える多様な人材の育成・確保

国際競争力のある産業の振興
地域の活力につながる産業の振興
地域資源を活かした地域経済の活性化
地球温暖化・エネルギー問題への対応による産業の振興

中山間地域等と都市地域との交流・連携等による生活サービス機能の確保
安全・安心な国土・地域づくりの推進
多様な主体が連携・協働した地域づくりの推進

四国圏の目標

安全・安心を基盤に、快適な暮らしを実感できる四国
～心穏やかに暮らせるやすらぎの実現～

地域に根ざした産業が集積し、競争力を発揮する四国
～グローバル化を生き抜く産業群の形成～

歴史・文化、風土を活かした個性ある地域づくりを進め、
人をひきつける四国
～おもてなしの心あふれた癒やしの実現～

東アジアを始め、広域的に交流を深める四国
～進取の息吹を与える交流の創出～

中山間地域・半島部・島しょ部等や都市が補完しあい
活力あふれる四国
～農山漁村と都市の共生～

災害に強い地域をつくる
自然・地球環境との調和を高める
地域の暮らしの快適性を高める

絶え間ないイノベーションにより世界に通用する産業を育てる
多角的成長力を持つ産業集積を高める

美しい風土を形成し、地域の魅力を高める
歴史・文化的資源を継承し地域の独自性を発揮する

東アジア・世界との交流を活性化する
環瀬戸内海や全国との交流を活性化する
圏域内の交流を活性化する

農山漁村（中山間地域等）の暮らしと環境を支える
都市の魅力・快適性を高める

連携テーマ

連携テーマ1

広域観光・インバウンド観光の推進

連携テーマ2

産業集積地間の
連携による
国際的な産業拠点形成

連携テーマ3

瀬戸内海の
環境保全と修復

連携テーマ4

暮らしの安全・安心と
防災ネットワークの整備

連携テーマ5

広域交通ネットワークの
連携促進

連携テーマ1 広域観光、インバウンド観光の推進

空港・港湾・高速道路に加えて、本四架橋や航路等の中国圏・四国圏が共有する特徴ある交流基盤を活かして、瀬戸内海を始めとする両圏域の観光資源を磨き、繋ぐ広域観光ルートの形成や国内・国外クルーズの誘致、インバウンド観光の推進等を図る。

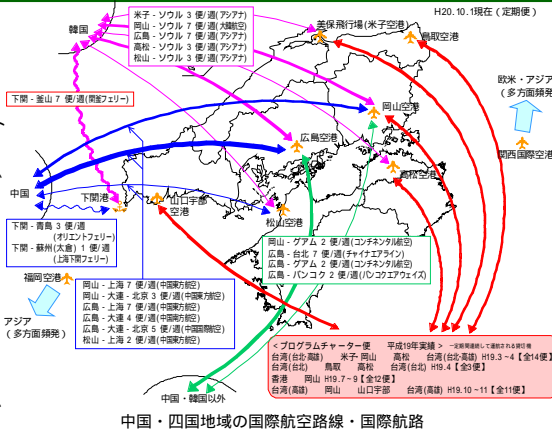
中国圏・四国圏の主な特徴

東アジア等を中心としたインバウンド観光振興

東アジアの経済成長によるインバウンド(外国人観光旅客の来訪)の拡大が予想されている中で、中国圏・四国圏においても、中国や韓国を主体とした国際定期路線のある空港・港湾を有しており、中国や台湾への国際旅客チャーター便を運航した実績もあるなど、東アジアをターゲットとしたインバウンド観光の振興を図っている。
両圏域では欧米からの観光旅客のシェアが全国に比べて高いことから、東アジアのみではなく、欧米からのインバウンド観光の振興も図っている。

美しい自然風景、豊かな地域資源、独自の文化の存在

中国圏・四国圏ともに、古い歴史と多彩な自然に恵まれ、国内外に通用する観光地を有しているほか、それぞれの圏域において観光圏の整備も進められている。特に、両圏域が共有する瀬戸内海は多島美に恵まれ、クルーズ等の国際的な周遊観光や、温暖な気候や新鮮な食材を生かした体験型観光・滞在型観光にも適している。
瀬戸内海の沿岸には、港町等の歴史的なまちなみや水軍に関連する遺産、徒歩や自転車で島々を渡ることができる瀬戸内しまなみ海道等、両圏域に共通する資源があり、「瀬戸内・海的路ネットワーク推進協議会」等の広域連携による活動も行われているなど、これらの資源を磨き、繋ぐことによって、特徴あるテーマを持った観光ルート形成のポテンシャルを有している。

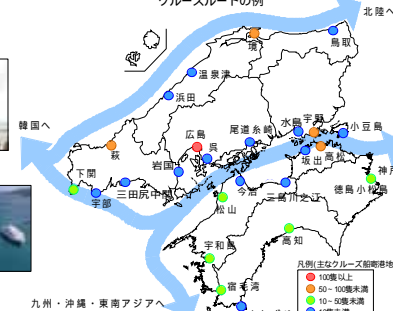


主な取組

インバウンド観光の推進と受け入れ体制の整備
広域観光の推進
国内・国外クルーズ誘致
瀬戸内海ブランドの構築

国内・国外クルーズ誘致

両圏域が連携した国内・国外クルーズの誘致
多様な主体の連携によるクルーズの広報活動や寄港地歓迎イベントの実施、寄港地周辺の観光ルート形成



クルーズのイメージ

(事例)瀬戸内海クルーズ・インバウンド商品化事業
中国、韓国、台湾のメディアと旅行会社を対象に、クルーズ体験及び視察ツアーを実施し、PR、商品化に取り組んでいる。

瀬戸内海ブランドの構築

瀬戸内海及びその周辺を瀬戸内フィールドミュージアムとする取組の促進等、瀬戸内海の景観、歴史、文化、食、まちなみや等の多彩な資源を生かした瀬戸内海ブランドの構築
農業交流・連携や瀬戸内海の水産資源の育成による、新しい特産物の生産に向けた取組等を進める



(事例)瀬戸内国際芸術祭
2010年に、瀬戸内海の7つの島(直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島)と高松を会場として、島々の歴史や文化を活かした現代アートの祭典を開催予定。
(事例)しまなみ海道10周年記念事業
平成21年5月に、広島県尾道市と愛媛県今治市を結ぶ「瀬戸内しまなみ海道」が開通10周年を迎えることから、同年4月から10月までの半年間にわたり、「花とアートでつなぐ人・島・未来」をテーマに、両県が協働して記念事業を実施。
瀬戸内国際芸術祭チラシ
来島海峡大橋(愛媛県今治市)

インバウンド観光の推進と受け入れ体制の整備

訪日外国人観光旅客に向けた主要観光地を結んだ観光ルートの設定や、食文化や体験観光等テーマに特化したルートの設定
(事例)台湾からの国際旅客チャーター便
2007年3月から4月にかけて、台湾の立業航空が米子空港・高松空港と台湾を結ぶ国際旅客チャーター便を9便運航し、1,212人の利用があった。行程は4泊5日で、鳥取、香川の両県を含む中国、四国、近畿の主な観光地を巡った。

国際観光テーマ地区(瀬戸内地区・東中四国地区)の海外へのPR等の実施、東アジアや欧米等の旅行会社・メディアの招請による情報発信
(事例)米子空港・高松空港と台湾を結ぶ国際旅客チャーター便
大島、直島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島と高松を会場として、島々の歴史や文化を活かした現代アートの祭典を開催予定。

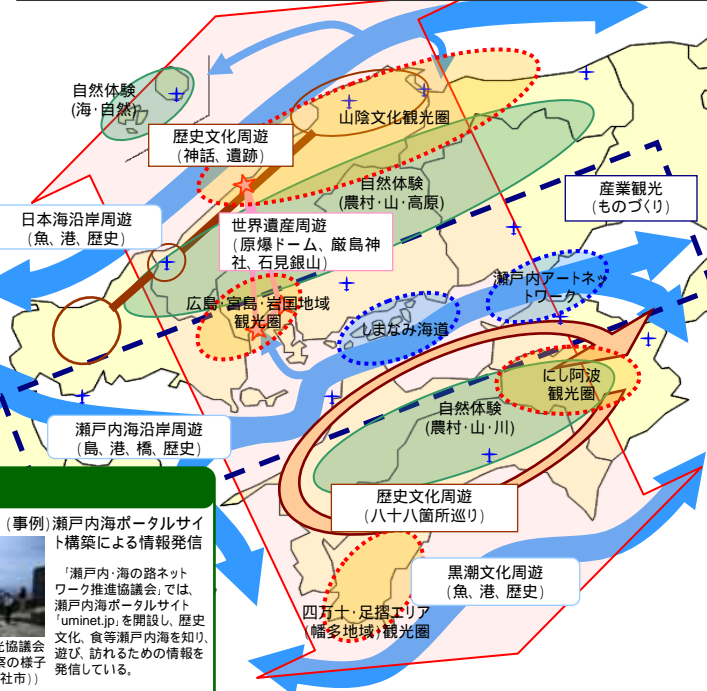
観光地へのアクセスの改善等旅客の移動の容易化を図る
(事例)外国人観光旅客向け接客マニュアル
外国人観光旅客受け入れのための接客マニュアルの共有化や訪日外国人観光旅客の受入研修の共同開催の実施、外国人観光旅客が一人歩き出来るよう旅行案内所の多言語表示化



広域観光の推進

歴史的まちなみや水軍に関する遺産、徒歩や自転車で島々を渡ることができる瀬戸内しまなみ海道等中国圏・四国圏の共通の資源を活用したテーマ観光ルートの形成
(事例)岡山・香川広域観光協議会
岡山県と香川県が共同で各種観光事業を推進することにより、両県への観光旅客誘致を図ることを目的に平成3年度に設立。旅行会社視察事業、情報発信素材作成事業、瀬戸内海の魅力発見事業等を実施。
(事例)瀬戸内海ポータルサイト構築による情報発信
「瀬戸内・海的路ネットワーク推進協議会」では、瀬戸内海ポータルサイト「uminet.jp」を開設し、歴史文化、食等瀬戸内海を知り、遊び、訪れるための情報を発信している。

国際観光テーマ地区	
【瀬戸内地区】 広島県、山口県、愛媛県	【東中四国地区】 岡山県、鳥取県、島根県、香川県、高知県



連携テーマ2 産業集積地間の連携による国際的な産業拠点形成

中国圏・四国圏における造船業と船用工業のクラスター形成の強みを生かして、国際競争力のある造船産業ゾーンの形成を図るとともに、瀬戸内海沿岸域に立地するリサイクル拠点をネットワーク化して、環境・循環型産業の活性化を図る。また、中国圏と四国圏とのビジネス面での交流を強化し、新たな事業展開に向けて経済的な結びつきの強化を図る。

中国圏・四国圏の主な特徴

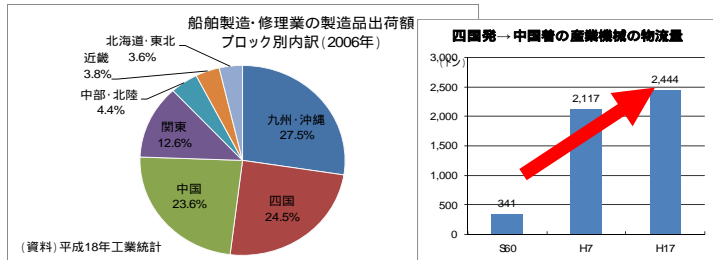
ものづくり産業の集積

中国圏・四国圏においては、臨海部に複数のコンビナートを擁しており、石油、鉄鋼、化学等の基礎素材型産業や、自動車・造船等の加工組立型産業等、ものづくり産業の集積・立地が多数ある。特に瀬戸内海では造船業とそれに関連する船体ブロック産業や船用工業、海運業が集積しており、中国圏と四国圏で日本の造船の約5割、世界の2割近くを生産している。

本四架橋整備により、四国圏から中国圏への産業機械の輸送が大きく拡大し、船用機器等の物流もさらに活性化している。

瀬戸内海沿岸におけるリサイクル拠点の集積

瀬戸内海沿岸においては、鉄鋼・セメント・製紙等の基礎素材型産業が集積しているが、それぞれの産業特性を生かして、各種の産業廃棄物を再資源化する取組が進んでいる。また、岡山県、広島県、山口県、香川県直島町、愛媛県、高知県高知市におけるエコタウン事業の取組や、神戸港、徳山下松港、宇部港、三島川之江港、北九州港等がリサイクルポートに指定されるなど、リサイクル拠点の整備が進められている。



主な取組

国際競争力のある造船産業ゾーンの形成
環境・循環型産業の活性化
新事業展開に向けた広域的連携の推進

国際競争力のある造船産業ゾーンの形成

造船関連産業の集積を活かし、瀬戸内海の内海運や本四架橋等の既存ストックを活用したより迅速で効率性の高いサプライチェーンの形成

造船業と船用工業・素材産業・大学等との連携による研究開発の推進

因島技術センターと今治地域造船技術センターとの交流・連携や機能強化による現場技術力の一層の強化、人材育成
造船産業への理解を深める啓発事業や、造船業と観光との連携、地域イメージの向上等海事都市づくりの推進

世界シェア17%を有する瀬戸内海造船産業クラスターの形成イメージ



環境・循環型産業の活性化

瀬戸内海沿岸の素材産業拠点において、各地域のリサイクル産業を成長させ、地理的に近接する強みを生かした海上輸送による効率的な静脈物流ネットワークの形成と環境・循環型産業の活性化

(事例)静脈物流ネットワークの形成



本図は、瀬戸内静脈物流事業化推進協議会において検討されている静脈物流ネットワークを図示したものに、既にリサイクルポートに指定された港湾や[]内の各港の積み卸しで想定される廃棄物を追記したものです。

(事例)リサイクルポートの整備と指定



連携テーマ3 瀬戸内海の環境保全と修復

中国圏・四国圏において、瀬戸内海を共有する近畿圏・九州圏と連携して、豊かな生活や交流の基盤として活用するため、瀬戸内海の漂着ごみ、漂流ごみ、海底ごみの清掃活動や、「瀬戸内海環境修復計画」に基づく環境浄化と環境修復のための多様な活動を広域で推進し、環境の質を高める。

中国圏・四国圏の主な特徴

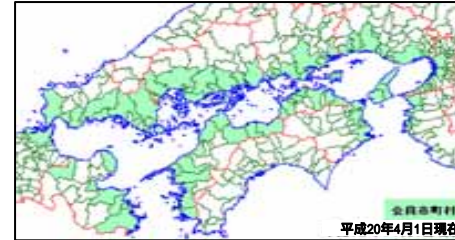
広域連携による瀬戸内海清掃活動の実施

瀬戸内海では水質改善と併せて、大量の漂流ごみ・漂着ごみ・海底ごみ対策が課題となっている。瀬戸内海沿岸の107の市町村と11府県等が集まり、毎年沿岸の美化活動等を行う「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」による活動が展開されている。

干潟・藻場の減少等の環境変化に対応した様々な活動の実施

瀬戸内海においては戦後、干拓・埋め立てにより干潟の約2割が消失し、アマモも昭和60年以降約7割が消失した。こうした背景の中で、漁獲量も昭和50年代から減少している。環境保全、水産資源保護、環境修復に係る多くの公設試験研究機関・大学・NPOが、環境保全と修復に関わる様々な活動を展開している。瀬戸内海の全域を対象として、浅場の修復を図る「瀬戸内海環境修復計画」が策定されている。

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会 会員市町村



瀬戸内海沿岸に位置する各市町村が一堂に会し、新たな文化の創造、観光、レクリエーションの振興と発展を図ることを目的に、平成3年5月に設立。

「リフレッシュ瀬戸内」による海辺の清掃活動、外国客船歓迎イベント等瀬戸内海様々な魅力発信、「みなとナビせとうち」による航路情報の発信等様々な交流・連携活動を行っている。

主な取組

瀬戸内海のクリーンアップ
瀬戸内海の環境修復

瀬戸内海のクリーンアップ

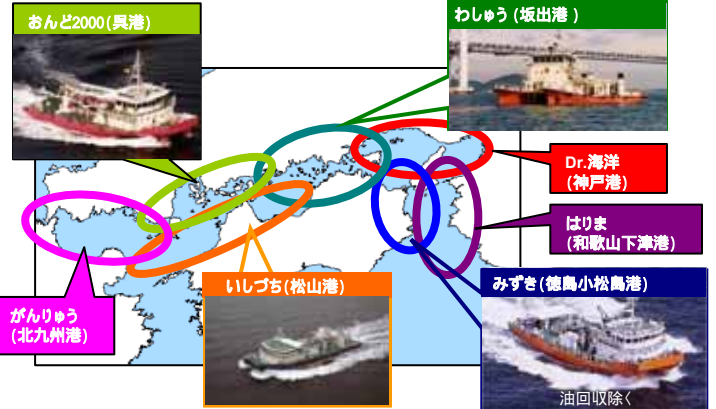
海域毎に取り組みされている海面清掃船による漂流ごみ・油の回収活動の実施
瀬戸内海沿岸の清掃活動といった「里海としての再生」に係る取組の継続実施、沿岸域のモニタリングの実施
行政・漁業者等の連携による海底ごみの回収・処理等システムの確立
沿岸自治体だけでなく広域的な行政の連携による陸域からのごみや生活排水等の流入防止

(事例)瀬戸内海沿岸及び河川の連携した美化活動

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会では住民参加で海岸の清掃活動を行う「リフレッシュ瀬戸内」を実施。美しい瀬戸内を守る啓発や協議会を広く一般に広報。平成16年からは「瀬戸内川と海のクリーンアップ大作戦」～瀬戸内の生命(いのち)育む川と海～をテーマに、海と川で毎年連携して清掃活動に取り組んでいます。平成20年は約15万人が参加。



海面清掃船による海洋環境整備事業



(事例)海ごみ対策検討会における海ごみ対策マニュアル策定事業

平成18年3月に設置された瀬戸内海海ごみ対策検討会では、瀬戸内海ごみによる汚染を防止するため、日本海沿岸におけるクリーンアップや漂流・漂着ごみの情報共有の連絡体制、知見を活かして、海ごみの回収知見を集約した「海ごみ回収マニュアル」の策定に取り組んでいる。

瀬戸内海の環境修復

環境保全と修復に関わる各種の公設試験研究機関・大学・NPO・住民・漁業者等による情報共有や研究機能の強化と連携
「瀬戸内海環境修復計画」に基づき、様々な主体の連携・住民参加・協働により、藻場・干潟の造成や海砂利採取跡地の修復、覆砂等の整備を推進し、鉄鋼スラグや石灰等の産業副産物の有効活用を図るなど、他の自然環境の改変の抑制も努めつつ、赤潮や水質汚濁、底質の改善を図り、漁場としての生物生産性の向上を図る
景観保全に向けた景観計画の策定を推進

(事例)瀬戸内海資源回復計画

緊急に資源回復を図る必要がある魚種について、漁獲の制限、種苗放流、漁場環境の保全等必要な対策を総合的、計画的に推進。
瀬戸内海における広域種の計画

1. サワラ瀬戸内海系群資源回復計画
2. 周防灘小型機船底びき網漁業対象種資源回復計画 (カレイ類、ヒラメ、クルマエビ、シャコ、ガザミ)
3. カタクチイシガキ瀬戸内海系群(鱧)資源回復計画

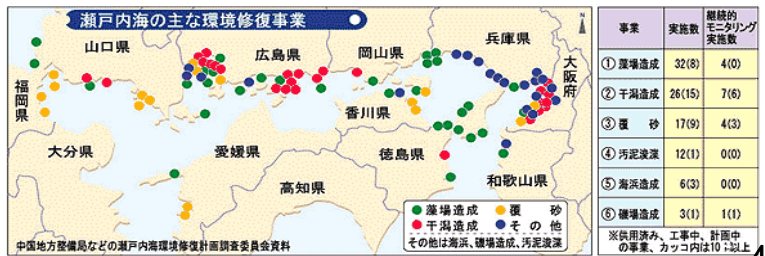


(事例)東備地区広域漁場整備事業



(事例)瀬戸内海の水質環境修復事業

瀬戸内海の水質環境保全にかかる施策を総合的かつ計画的に推進するため「瀬戸内海環境修復計画」を策定。平成16年より概ね20年間で藻場・干潟等の浅場を約600ha修復することを目標としている。



連携テーマ4 暮らしの安全・安心と防災ネットワークの整備

大規模な地震や津波等による広域災害が発生した際に、海路・空路を活用した災害時の応援・救援体制の連携を図るとともに、防災情報システムのネットワーク化による情報共有、防災意識の醸成等防災教育を連携して行う。また、瀬戸内海における離島住民の医療・保健の確保に向けた取組を促進するとともに、中山間地域等における実践的な調査研究や情報交換等により、関係機関との連携による支援体制づくりと地元の発意に基づく地域づくりの適切な支援を行う。

中国圏・四国圏の主な特徴

海上輸送を活用した広域的な救援実績

阪神淡路大震災の折には、陸上交通網が遮断されたため、港を核とした海上輸送で救助隊や救援物資が輸送されるなど、海上輸送を活用した広域的な救援活動が行われた。中国圏・四国圏は、台風や豪雨等による水害、高潮・土砂災害等を受けやすい地域であり、今世紀前半には東南海・南海地震の発生やそれによって生じる津波の発生も予測されることから、両圏域が連携して災害対策を行うことが求められている。

船舶・架橋を活用した広域的な医療体制の存在

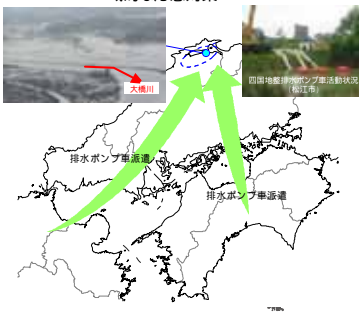
瀬戸内海の離島等の医療・保健を確保するために、診療船による離島住民に対する医療サービスの提供が行われているほか、海上タクシー等を活用した救急搬送が行われている。

本四架橋や安芸灘とびしま海道を活用した救急搬送や血液搬送等が行われている。

持続的な地域経営が困難な中山間地域等

中山間地域等では、過疎化、高齢化が深刻な状況となっており、生活サービスの低下への対応等、地域の支援施策の検討を必要としている。また、中山間地域等は多面的機能を備えており、今後もそうした機能の維持を図ることが重要である。

(事例)平成18年7月豪雨(島根県東部)時の広域的な応急対策



巡回診療船「済生丸」世号
(資料)社会福祉法人済生会HP



巡回診療船「済生丸」の運行範囲
(社会福祉法人恩賜財団済生会)

主な取組

広域的な相互救援活動の強化
広域防災拠点のネットワーク化
広域的な医療ネットワークの構築
中山間地域等の支援

広域的な相互救援活動の強化

圏域を超えた連携による広域的な防災情報システムのネットワーク化による情報共有
「中国・四国地方の災害時相互応援に関する協定」等の相互応援協定等を踏まえ、大規模地震等を想定した相互支援シミュレーション、人材交流、関係機関との連携による広域的な防災訓練の実施

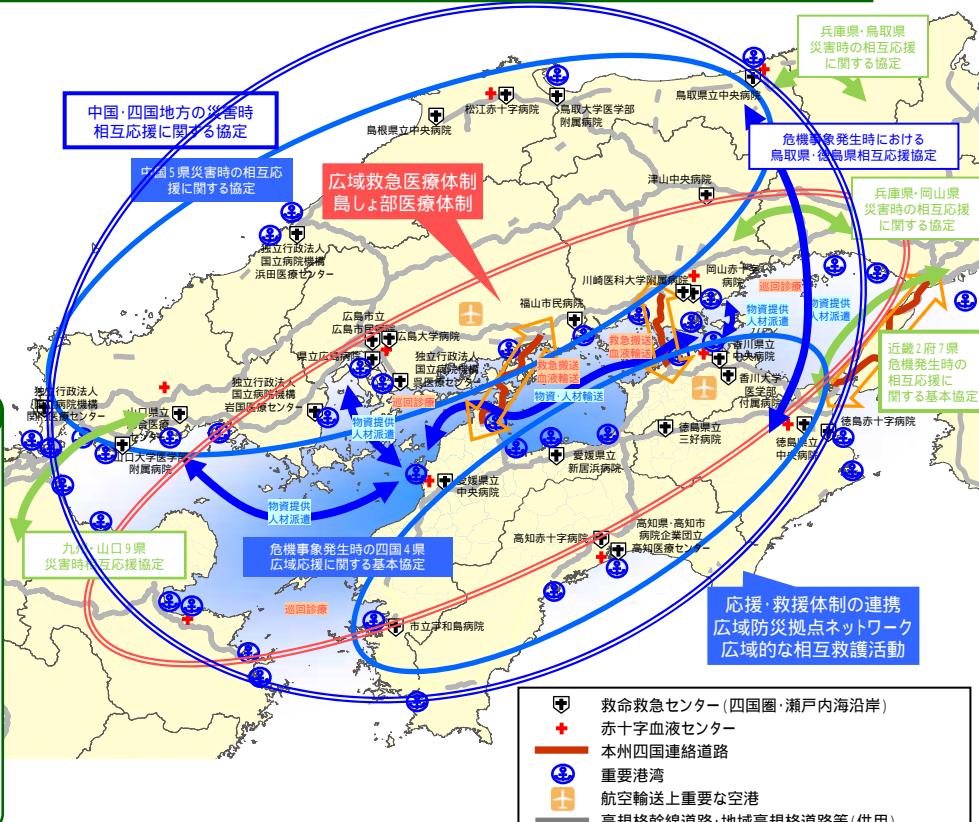


平成20年度 総合防災訓練(四国地方整備局)

広域防災拠点のネットワーク化

災害時に広域防災拠点となる港を核として大量の救援物資や復旧活動支援部隊を輸送するネットワークの構築
港湾沿岸部の産業物流の停滞を回避し、国際競争力の確保と社会経済力の維持継続を図るため、港湾間の代替・補完機能を考慮しつつ、耐震強化岸壁の整備の推進

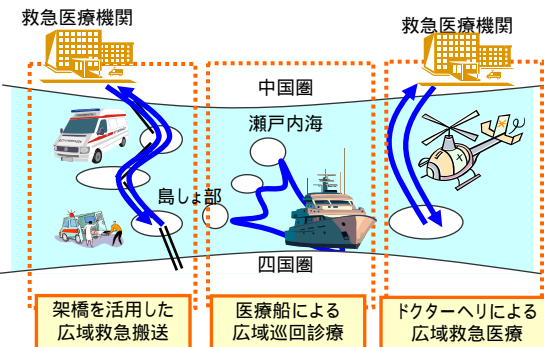
広域防災拠点ネットワークのイメージ



広域的な医療ネットワークの構築

瀬戸内海の離島住民の医療・保健を確保するため、診療船の活動に加え、妊婦等を対象とした広域救急搬送システムに基づき、ドクターヘリ等も活用した救急体制の連携と充実

広域医療ネットワークのイメージ



中山間地域等の支援

両圏域において実践的な調査研究を進めつつ、持続可能な中山間地域の形成に向けた情報交換等により、関係機関で連携して適切な支援を行う体制を構築し、地元の発意に基づく地域づくりを支援

(事例)島根県中山間地域研究センターの共同研究例(農地の利活用分析)



農地一筆マップの作成状況

活用事例:管理者年齢別マップ

連携テーマ5 広域交通ネットワークの連携促進

観光交流やビジネス交流の拡大、物流の効率化、産業の新展開等による両圏域の一層の振興と災害時のリダンダンシーの確保を図るため、高規格幹線道路ネットワーク等の整備やこれを活用した広域的な集客に向けた取組を進めるとともに、本四間のフェリー航路や離島航路の維持・活性化、船舶の大型化等に対応した物流基盤整備を進める。

中国圏・四国圏の主な特徴

西日本を繋ぐ位置的役割

中国圏・四国圏は、近畿圏と九州圏の間を繋ぐ西日本の中心に位置し、陸上・海上交通の要衝として重要な役割を担っている。

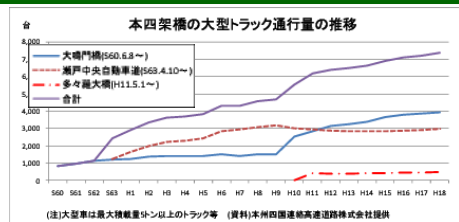
航路・架橋による多様な交流の拡大

中国圏・四国圏は海で隔てられているが、多数の航路で繋がれ、観光・産業・生活面での多様な交流が行われている。本四架橋が整備されたことにより、本州・四国間の大型トラックの通行量が増加するなど、以前より交流の規模が拡大している。本四間のフェリー航路や離島航路等採算が厳しい航路では減便・廃止などが続き、住民の生活の安定及び福祉の向上、環境・防災対応等の観点に加え、広域観光の振興の観点から、その維持・活性化に向けた検討が必要となっている。

日本海側では、境港と韓国(東海港)・ロシア(ウラジオストク港)、浜田港とロシア(ウラジオストク港)を結ぶ定期航路が開設され、西日本の新たな物流・交流拠点としての期待が寄せられている。

瀬戸内海沿岸等のものづくり産業を支える物流基盤

瀬戸内海沿岸には、工業地帯と一体となった多くの港湾があり、中国圏・四国圏のものづくり産業の強みとなっている。近年では東アジアの成長に伴い貿易量が急増しているが、今後は両圏域の国際競争力を高める上で、船舶の大型化等に対応した物流基盤の強化が求められている。



主な取組

本四架橋等を活用した地域活性化
日本海・太平洋にまたがる

交流連携の新たな展開
効率的な海上物流に資する
物流基盤の整備

本四架橋等を活用した地域活性化

本四架橋や高速道路の一層の活用による地域振興を進めるため、料金の引下げ等の弾力的な料金施策や中国・四国をまたがる組織による広域的な観光交流・物流活性化策等の利用促進施策の促進

中国と四国、瀬戸内海の離島を繋ぐ航路の運航の効率化や観光振興による交流人口の増加等その維持・活性化港の交流拠点機能の強化・充実

(事例)瀬戸内しまなみ海道振興協議会の概要

構成
2市1町(尾道市・今治市・上島町)および関係25団体

主な事業内容
周辺市町の広域的課題に対する連絡調整及び事業の推進に関すること

瀬戸内しまなみ海道周辺地域の活性化のための調査、研究及び施策の推進に関すること

広域共同プロジェクトの推進に関すること

瀬戸内しまなみ大学に関すること

しまなみ海道レンタサイクルに関すること

その他目的達成に必要な事項に関すること

(資料)瀬戸内しまなみ海道振興協議会ホームページより抜粋

(事例)瀬戸大橋スカイツアー

「瀬戸大橋」という長大橋を産活として、普段立ち入ることができない、JR瀬戸大橋線が真横を駆け抜ける管理用通路や、海面から175mの塔頂へ案内するツアーで、本州四国連絡高速道路(株)、岡山県、香川県の3者が共同事業として実施している。

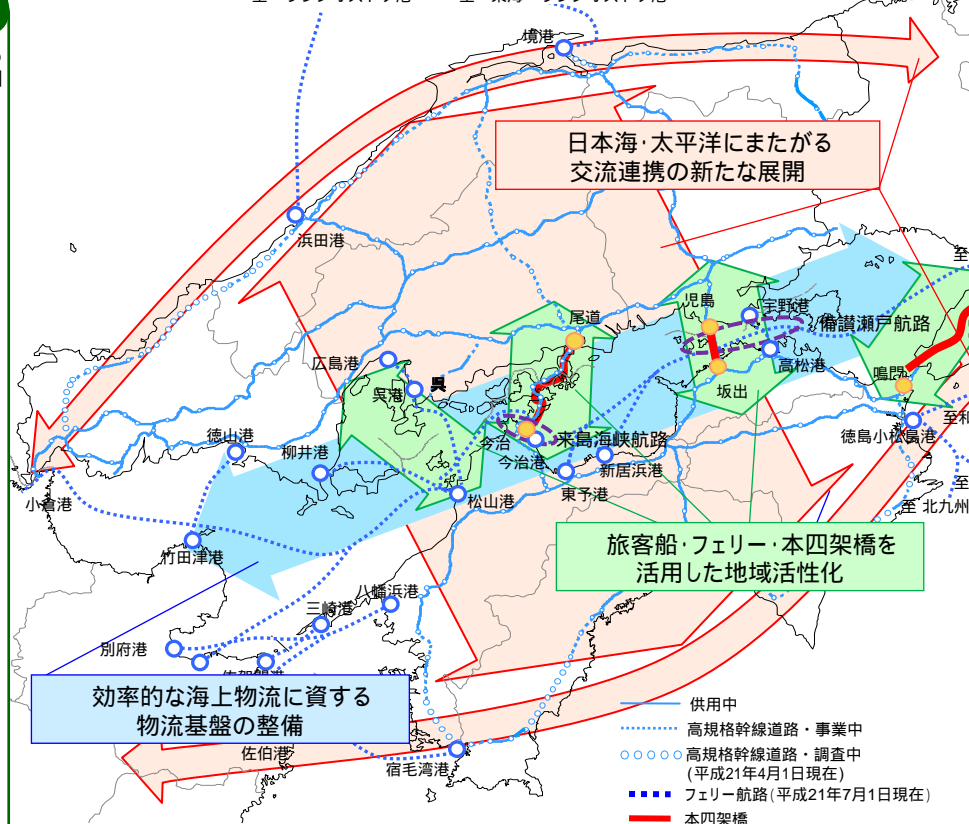


(事例)みなとオアシスの取組

「みなと」を地域の方々や観光旅客等多くの人が気軽に立ち寄り交流する憩いの場、いわゆる「オアシス」として活用するため、海浜・旅客ターミナル・広場等「みなと」の施設やスペースを活用した地域交流拠点を認定するもので、中国圏、四国圏合わせて22港が登録(うち7港は仮登録)(H21.3末現在)されている。



至 ウラジオストク港 至 東海・ウラジオストク港



日本海・太平洋にまたがる交流連携の新たな展開

日本海側や太平洋側の広域的な物流拠点間の連携を視野に入れ、中国圏・四国圏の交流連携に資する日本海沿岸から太平洋沿岸までの両圏域全域を繋ぐ高規格幹線道路ネットワーク等の構築

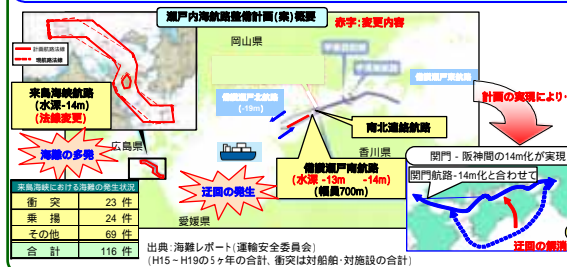


効率的な海上物流に資する物流基盤の整備

両圏域の連携による航路の増深等、船舶の大型化等に対応した物流基盤の整備を推進することで、瀬戸内海航路体系の再構築、海上物流の効率化を図る

深刻なボトルネックにより、瀬戸内海航路の船舶航行の安全性・効率性は低い

航路の整備(増深等)により大型船舶を含めたすべての船舶が安全で効率的な運航が可能となり、産業活性化に寄与



(四国圏については、四国8の字ルートを表記している。)